

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう済民 岩手棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100139		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	グループホーム ゆうゆう済民 岩手棟		
所在地	〒028-4132 盛岡市済民字泉田178番地		
自己評価作成日	令和5年10月12日	評価結果市町村受理日	令和6年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前年度に続き、所長会議に3~6カ月に1回は、リーダーも参加し、現状の話し合いや事業所運営計画を作成(サービス・人材育成・入居率)し、取り組み進捗状況の確認を行い、利用者さんはもちろん、職員の育成にも力をいれている。コロナウイルスも5類となり、3事業所間での交換研修や事業所間での支援のズレがないよう、3事業所間での合同研修の実施している。又外部研修へも積極的に参加し知識を深めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近辺に児童館、公民館、小学校や公園のほか、スーパーマーケットやドラッグストアがある住宅地に位置し、地域との交流や散歩、買い物などの外出支援に取り組みやすい住環境にある。事業所の介護支援方針は、「利用者が主体で、利用者ができることは自分でを行い、できない部分について必要とする支援を行う」というもので、利用者は、事業所周辺へ出かけたいときに出かけ、食事も食材の買い物から調理まで利用者が主体となって行い、夜中に空腹のときは夜食を作って食べ、入浴も好きな日に好きな時間に入浴し、洗濯も自分でできる利用者は自分で行い、事業所敷地の雪掻きも利用者が自主的に行っている。利用者とは知り合いの地域住民もいて、利用者が知り合い宅に遊びに行ったり、外出した利用者を見かけたと事業所に連絡してくれたり、地域の見守り環境がある中で、利用者は自宅にいたときのように自分のペースで思いどおりに生活している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念方針を掲げ、それを目標にしなが、現状の把握に努め、毎月課題改善に努めている又、個別の勉強会を実施。	設立時に職員で話し合っって作った事業所の理念「ゆうゆうと笑顔あふれる暮らし」を毎月の全体会議で職員全員で唱和し、利用者がゆうゆうと過ごせるよう職員も笑顔で自立支援に当たっている。毎月、ユニットごとに理念の実現に向けた課題を話し合っって、改善に努めているほか、新任職員の個別勉強会なども実施し、理念の共有と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流はないが、散歩中や向かいの方を見かけた際には、声を掛けさせてもらっている。	コロナ禍前は児童館の子どもたちがハロウィンなどのイベントのときにホームに来て利用者と交流していたが、現在は中断している。今年度は3年ぶりに児童館の夏祭りが開催され、利用者も参加することができた。また、利用者が外を歩いているのを近所の人が見かけ、連絡をもらうこともある。自治会の一斉清掃活動には事業所も参加している。前回の外部評価後に目標達成計画を作成し自治会などから情報を得てコロナ禍でもできる交流に取り組むことにしていたが、これについては現在も検討過程にある。	利用者が外を歩いているときに地域の方々から連絡をもらうことがあり、地域の見守り環境があると思われすが、より地域との交流を深めるために、自治会を通じて、事業所の様子や行事の情報をお知らせしたり、認知症のケアや相談対応など事業所の強みを地域にアピールすることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3年ぶりに児童館の夏祭りへ参加させて頂く。児童館側でも、縮小しながらの開催ではあったが、事業所として、おもちゃずきをさせて頂き、利用者さん、子供達との交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、現状の報告を行い、ご意見を頂いている。又、今回は施設内でのコロナクラスターが発生し状況と対応を報告させて頂く。	運営推進会議には、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員が参加しており、利用者や家族も参加することもある。会議では、特にヒヤリハット・事故報告について原因解明や今後の対策まで詳細に報告されており、メンバーから積極的に意見が寄せられている。	これまでは会議結果について、職員間での情報共有が積極的に行われていませんでしたので、全職員に回覧することなど、共有の仕組みを検討することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、相談させて頂き、意見や助言を頂いている。	市の担当課とは、実地指導や身体拘束関係などの書類提出の際に関わることが多いが、今年度は特にコロナ禍関連で市の介護保険課に指示を仰ぎ、助言をもらいながら対応している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束適正化委員会を実施し、現状に対して話し合い、取り組み内容を各職員へ周知改善に向けて取り組んでいる。年2回の内部研修の実施し、10月の全体会議にて、不適切なケアの勉強会を行う予定となっている。施錠は夜間のみとなっている。	身体拘束適正化委員会は、管理者、両ユニットのリーダー、ケアマネージャー、計画作成担当者、両ユニットの職員代表の7名で構成されている。会議では、現状の把握と課題等を検討し、その結果を全職員に回覧し共有している。また、DVDを用いた事例をもとに一人一人が身体拘束について考える内部研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみで、日中、利用者は自由に玄関から外に出ることができ、職員が後ろから距離を置いてついで行き、さりげなく見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を通して、虐待や不適切なケアに繋がるような内容があれば、改善に向けて話し合いを行い、職員へ周知改善に取り組んでいる。勉強会も実施している。又、外部研修にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今回権利擁護に関して、研修に参加できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の方針として、誰でも分かるよう専門用語は使わず、お話し説明させて頂いている。その場では不安や疑問が出ない事も多く、説明後には疑問があれば、いつでも連絡頂けるようお話ししている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんやご家族さんとの関りを常に意識し、面会や普段から関りの中で要望があればできる限り応えさせて頂いている。	日常生活の中で利用者の要望を聞き、面会時には家族の意見や要望を聞き取るように、常に意識しながら接している。また、玄関口に投書箱を置いているものの、あまり投函されないことから、毎月、利用者の様子を家族に個別にお知らせする「ゆうゆうだより」の中に「家族からの意見等」をもらう欄を設け、切手を貼った返信用封筒も同封し、意見や要望を気軽に出してもらえようように工夫している。出された意見や要望には応えるように努めている。	評価機関が実施した「利用者家族等アンケート」では、職員の異動について「報告がない」とする声もあることから、家族に送付している「ゆうゆうだより」には、職員の異動についても分かるように紹介することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所として、普段から職員の意見要望を聞くようにしている。今回、夜間体制加算廃止に伴い、事前に職員から聞き取りを行いながら、勤務時間の変更を行っている。	職員の意見や提案は、管理者が勤務中や申し送り時に職員と話す機会に聞き取るようにしている。また、3か月に一度の管理者との個別面談の際や、月に3~5回本部部長が巡回してくる際に、職員から意見・提案を直接聞くことがある。利用者が不便に感じていることの改善提案が多く、その都度運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は普段から職員一人一人の勤務状況の把握に努め、ユニットリーダーとも連携し状況の把握改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダーを中心にユニットの現状に合わせ、課題を設けながら、日々の取り組みを行っている。その中で、チームとして目標を持ちながら、各職員の能力に合わせた目標助言を行っている。必要がある際には、個人に勉強会を実施している。又、外部研修や事業所間合同研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、外部研修に積極的に参加し、他の事業者の方とも交流・意見交換を行いながら、ホームとしてのサービス向上、職員の意欲向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に聞き取りを行いながら、職員間で共有し実践している。又、普段から関りを大切にしながら、利用者さんの不安や悩みも聞くよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや契約の際、ご家族さんの話を聴きながら、事業所として、出来る限り要望に応えられるよう努めている。又、普段から、お話をさせて頂きながら、都度聞くよう心掛けている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々で、必要であればお話を伺いながら、対応させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの生活の場、利用者さんの家にお邪魔させて頂いているを意識し、介護するではなく、させて頂いているを意識し努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は面会の制限もなく、会いたいときに来て頂いている。又、外出の機会も多くなってきている。普段から利用者さんの状況を報告させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、なじみの場所として、床屋や買い物へ出かけている。又、ご本人の希望があった際には、近隣の知り合いの方へ会いに行かせて頂いている。	馴染みの人や場所との関係維持を介護計画に取り入れている。コロナ禍にあっても面会は15分間までとしていたが、現在は30分に延長し、馴染みの人との関係維持の支援に努めている。また、もともと浜民に住んでいた利用者が多く、近隣の知人宅を訪ねさせてもらったり、近隣の馴染みの店に買い物に出かけたり、理美容院に通ったりしている。ドライブがてら馴染みの場所に寄ることもあり、利用者は懐かしんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間関係なく、ご本人が居たい所で過ごさせて頂いている。又、職員は利用者さん同士のきっかけを作り、余計なお手伝いはしないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に亡くなられた際、ご家族さんから連絡があり、火葬に参列させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、汲み取るよう努めてはいるが、その時々で話す内容が変わる事もある為、チーム間で共有しながら、本質の把握に努めるようにしている。	利用者の多くは思いや意向を自ら話すことができるが、中には問いかけられれば答えることのできる利用者もいる。一人一人に丁寧に接し、日常の会話の中から思いを汲み取るようにしている。思いや意向は、個人記録に記載し、その中からユニット日誌に記載して共有し、さらに重要と思われるものは月1回のカンファレンスで検討し、必要に応じ介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段からの関わりを大切にしながら、会話の中から新たな気付きもあり、できる限りの中ではあるが、取り入れ生活の幅を広げられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの思いも変化がある為、具体的な内容として、ご本人や周りの様子はどうか、記録しチーム間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者だけではなく、関わるチーム全員に書いてもらい、現状に合わせた計画書を作成している。必要に応じては、ご家族さん、管理者、計画作成者で話し合い、ご本人にとって最善となるよう努めている。	ユニットの職員全員が利用者の日々の状況を記録しておき、3か月ごとのカンファレンスにおいて、介護計画の目標に即してモニタリングを行っている。新たな要素や変化が見られる際には、家族の意見を聞き必要に応じて計画内容を見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、気づきがあれば日誌の方へ記入し、チーム全体で共有、実践に繋げている。結果内容を元に介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や周りの環境でも、その時々で変化は出る為、思い込みを持つことなく、柔軟に対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長やご家族様から、地域行事の情報頂いているが、月1回ということもあり、参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状況にへ変化があった際には、事前にご家族さんと話す機会を設け、病院とも話し合いを行いながら、ご本人の状況に合わせた医療が受けられるように努めている。	事業所の協力医のほか、利用者の入居前からのかかりつけ医も受診できるよう支援している。事業所の協力医以外への受診同行は原則家族としているが、家族が対応できない場合は職員が同行している。受診同行は午前中が多いことから、日中の勤務シフトを厚くするよう変更を行っている。受診結果は、「ゆうゆうだより」での受診記録により事業所と家族の間で情報共有している。利用者全員が週1回の訪問看護の際に健康状態のチェックを受け、必要な場合は受診指示をもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護があり、ご本人の様子をお伝えし、助言を頂いている。必要に応じて指示を頂き、受診される事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合は、出来る限り早めに退院が出来る様、病院と連絡を取らせて頂いている。今回、入院先でコロナ感染者が出てしまい、退院が延びてしまうケースがあった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で家族さんからは、話を伺っている。その都度体調に変化があれば、ご家族さんと話す機会を設け伺っている。又、現状でする事業所として看取りの状況をお伝えしている。	3、4年前までは看取りを行っていたが、現在は医療連携が整わず、看取りに対応できない状況にある。利用者や家族にはホームでの看取りを希望する人もいるが、医療行為を必要とする状態になった場合には、入院を選択する旨を説明している。	現在は医療連携体制を整える努力を行っている状況にありますが、体制が整うまでの間でも、看取り経験のある職員の経験などを学ぶ機会を作り、重度化した場合や終末期の支援について実践的な理解を深めておくことを期待します。

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し実践している。又、分からない事があれば、訪問看護時に聞き、実践できるよう備えている。救命講習を予定していたが、今年度はまだできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、消防署の方から助言を頂き改善に努めている。まだ、地域の方の参加が出来ていない。	年2回、夜間想定や消防署立会いの避難訓練を実施し、課題改善にも努めている。昨年3月に実施した訓練では、「火事だ」という声が小さい、利用者が居室に残っているか否かの確認が十分ではないとの課題があり、改善を検討している。災害時には、避難場所での利用者の見守り役として、2人の近隣住民の協力を得られるようになっている。水、食糧、ストーブ、灯油や毛布など非常時の備えも行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービスを提供させて頂いていると捉えながら、普段から接遇として課題にも取り組みを行い実践している。まだ、利用者さんのペースに合わせてしまい、言葉が崩れてしまうことがある。	利用者の人格を尊重し、本人が考え、自己決定できるような声掛けをするように努めている。馴れ馴れしい言葉遣いが出たときは、職員会議で話し合っ点検している。また、プライバシーを確保するよう、申し送りの際の職員間の会話やトイレ誘導の声が周りに聞こえないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が考え、自己決定できるような声掛けを出来る様務めている。すべての職員とはいかないが、改善傾向となっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体とならないよう、利用者さん一人一人の生活のペースに合わせて、ご本人に伺いながら、自由に過ごしたい場所で生活されている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧される方もおり、その人らしく思いに寄り添わせて頂いている。季節感がない服装や着かたが分からなくなる事もある為、、ご本人に配慮しながら、声掛けやお手伝いをさせて頂いている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員へ要望とはいかないが、その日その時に食べたい物があれば、一緒に買い物へ出かけ料理を作られている。通院後や誕生日には、職員と外食されることもある。	2、3日ごとに利用者と職員と一緒に食材を買いに出かけ、献立は決めずに利用者が食べたい物を選んでいる。調理も利用者が主体的に行っており、職員は見守りながら手伝うことがある。食卓の準備や後片付けも利用者が行っている。夜中に夜食を作って食べる利用者もいる。行事食も利用者が工夫して作って楽しんでいるが、自分の誕生日には職員と一緒に外食を楽しむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理までは行っていないが、糖尿病がある方には、先生に伺いながら、量を調整している。水分が足りない方には、ご本人の好みの物をお勧めしながら、摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声は掛けさせて頂くが、希望されない方もいる。定期的に歯科受診され、指示を伺いながら対応している。必要に応じて、お手伝いさせてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	分からなくなっている方もいるので、時間を見ながら、それとなく声を掛けさせて頂きトイレへ行かれる。ご本人の状態を見ながら、日中は普通の下着、夜間のみリハビリパンツやパット、ポータブルトイレを使用される方もいる。	多くの利用者は自立してトイレで排泄できている。声掛け誘導があれば一人でトイレで排泄できる状態にある利用者も中にはいるが、介助が必要な方はいない。入居前にはおむつを使用していたが、入居後はリハビリパンツを使用し、声掛け誘導によりトイレでの排泄ができるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人のお通じの把握に努め、出づらくなっている場合は、乳製品をお勧めしたり、希望に添いながら、散歩をされる方もいる。それでも難しい場合は、主治医に相談させて頂き、下剤の調整もさせて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	億劫で入りたがらない方もおられますが、声掛けの工夫や個々のタイミングを見ながら、入りたい時に入って頂いている。早朝、髪を洗われる方もおられる。	入浴日や入浴時間帯を特に決めておらず、利用者は入浴したいときに入浴することができるようになっている。概ね一人あたり週3、4回入浴している。一人で入浴できる利用者は、夜に入浴することもある。中には入浴したくない利用者もいるが、入浴するまでの期間は足浴や清拭、ドライシャンプーでの洗髪を行っている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人なりに疲れた時には、部屋やソファで休まれる方もいる。お手伝いが必要な方には、個々の状態を見ながら、声を掛けさせて頂き、休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今回施設内でコロナ感染があり、感染拡大防止のため、利用者さんの棟間の移動があり、普段服薬支援されていない方、忙しさの中で、飲まれていない薬があった。利用者さんの体調変化はなかったが、棟間での共有が上手く機能していなかった。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望に添いながら、料理や洗濯など日常生活の中で、出来る事をされている。個々に畑仕事や歌やゲームをされ楽しまれている方もいる。又、散歩やドライブへお誘いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は外出の機会も増え、畑仕事やドライブ、散歩、買い物へ出かけている。又、ご家族さんとの外出、ご家族さんの入院先へ会いに行かせて頂いている。	利用者は、職員と一緒に事業所周辺を散歩したり、買い物に出かけたり、事業所の家庭菜園でトマトやナス、大根、ジャガイモなどの栽培や草取りを行っている。また、ちょっと離れた場所にある産直まで買い物やアイスクリームを食べにドライブすることもある。家族に会いに自宅に行ったり、墓参りに行ったり、初詣に出かけたりするなど、利用者が出かけたい、行きたい所があれば、叶えてあげられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、ご家族さんと話しながら持たれる方もいる。ご本人が欲しいものがあれば、一緒に買い物へ出かけているが、制限なく使われる方もおり、都度お話をさせて頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙のやり取りはないが、ご自分で携帯を持たれ掛けられている方もいる。電話されたい時は、好きな時にかけて頂いている。又、ご家族さんから、ホームへ用事があった際には、利用者さんとお話して頂いている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にそった花や飾り物を一緒に作られたり、季節の食べ物を提供している。利用者さんの状況に合わせてながら、ご本人の過ごしたい場所で生活されている。	壁の色はベージュ系で照明は暖色という、穏やかな色彩で施された食堂兼リビングホールは、温度・湿度も過ごしやすく調整されており、快適に暮らせる環境にある。ホールには、テーブル、椅子、テレビ、ソファがあり、利用者は新聞を読んだり、テレビを観たり、洗濯物をたたんだり、2つのユニット間を自由に行き来したりと、思い思いに過ごすことができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人なりに落ち着く場所があり、おのおの自由に生活されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物、タンスや写真、仏壇を持って来られている方もいる。在宅で床で休まれている方もおり、ベッドを使用されない方もいる。	居室は、床暖房、エアコンで室温が快適に調整されており、ベッド、筆筒、床頭台が備え付けられている。利用者は使い慣れた馴染みの物を持ち込み、布団、テレビ、ラジオ、衣装ケース、遺影などを傍において、それぞれが居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分からない方もいますので、トイレ、お風呂場に貼り紙を貼らせて頂いている。部屋が分からない方には名前を付け、歩行が不安定な方には、自立できるよう手すりを設置し環境作りを行っている。		